

Leading center for the development and research of cancer medicine

ニュースレター

国際教養学のすすめ

6/28(土) 開催
順天堂大学国際シンポジウム

ーグローバル時代を生き抜くがんプロフェッショナルの育成を目指してー

順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学講座

先導的がん医療開発研究センター 副センター長 教授 樋野 興夫

「国際教養学のすすめ」開催報告

国際シンポジウム「国際教養学のすすめーグローバル時代を生き抜くがんプロフェッショナルの育成を目指してー」が開催された。木南英紀学長の「主催者挨拶」に始まり、新井一医学部長の座長のもとで、「グローバル時代にあるべき日本人像」(猪口邦子 参議院議員)、「国際人としての目覚め：欧州から見た視点」(山本忠通 駐ハンガリー特命全権大使)の2つの特別講演があった。ともに、大変、感銘を受けた。「日本のあるべき姿」、「真の国際人」の有り様を深く静思する機会が与えられた。「心優しく、柔和な品性」は、「本物と相対化」の両輪の獲得によって実現されることを学んだ。



パネル討論「世界で活躍する最先端の研究者育成に向けた日本の課題」は、斉藤卓也(文部科学省 大臣官房政策課評価室長)の司会により、中川英刀(独立行政法人 理化学研究所統合生命医科学センターチームリーダー)、山口浩史(テキサス州立大学 M.D.アンダーソンがんセンター)、渡辺その子(文部科学省 科学技術・学術政策研究所 総括上席研究官)をパネリストとして、更に特別講演のお2人をコメンテーターに加えて進められた。まさに、「純度の高い専門性と社会的包容力」の「実例と実行」であった。「役割意識・使命感」を持つ先導的なリーダーの時代的出番である。





筆者は「総括」する任を与えられた。まず、「真の国際人」とは、「賢明な寛容」を持ち「能力を人の為に使う」人物であり、明治維新以降の「真の国際人」のモデルとして、「岡倉天心・内村鑑三・新渡戸稲造」の3人を紹介し、教養の理念：「世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見ていく」、教養の使命：『俯瞰的に「人間」を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材の育成』、教養の社会貢献：『複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き』について述べた。筆者は、先日、wifeと軽井沢に向かい、「石の教会 内村鑑三記念堂」を訪問した。地下の資料館で、内村鑑三(1861-1930)直筆の「成功の秘訣」(1926年)を拝読した。まさに、「預言者的使命感」を持つ内村鑑三が掲げる「妥協のない純粹な自由」である。札幌農学校の同級生である新渡戸稲造(1862-1933)と共に、筆者にとってこの2人の傑物は、若き日からの人生の大いなる基軸である。

『真に勇敢なる人は常に沈着である。』

----- 吾人はこれを「余裕」と呼ぶ。それは屈託せず、

混雑せず、さらに多くをいえる余地ある心である』

(新渡戸稲造『武士道』より)。

まさに、「偉大なるお節介症候群」の主症状である。

「偉大なるお節介症候群」の診断基準

- 1 暇げな風貌
- 2 偉大なるお節介
- 3 速効性と英断

「偉大なるお節介症候群」認定証の選考項目

- 1 「役割意識&使命感」を持つ
- 2 「練られた品性&綽々たる余裕」
- 3 「賢明な寛容さ」
- 4 「実例と実行」
- 5 「世の流行り廃りに一喜一憂せず、あくせくしない態度」
- 6 「軽やかに、そしてものを楽しむ。自らの強みを基盤とする。」
- 7 「新しいことにも、自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力する。」
- 8 「行いの美しい人 (a person who does handsome) 」
- 9 「冗談を実現する胆力」～sense of humorの勧め～
- 10 「ニューモアに溢れ、心優しく、俯瞰的な大局観のある人物」





先導的がん医療開発研究センター活動報告

6/20(金) セミナー報告

MD Anderson Cancer Center Assistant Professor 山口 浩史

The regulation and role of histonemethyltransferase EZH2 in cancer

この度、順天堂大学において6月28日に行われたシンポジウム“国際教養学のすすめ”ーグローバル時代を生き抜くがんプロフェッショナルの育成を目指してーに分子病理病態学の樋野教授にご招待いただき参加いたしました。シンポジウムに先立ち、6月20日には順天堂大学を訪問し、何人かの先生方と研究内容やアメリカとの研究環境の違いなどをお話させていただく機会を得ました。また、セミナーを行う機会も与えていただき「The regulation and role of histonemethyltransferase EZH2 in cancer」という題目で講演をいたしました。金曜日の午後6時開始と遅い時間にもかかわらず多くの方がご参加くださり、参加者のみなさんからは貴重な質問をいただきました。中には同じ分子をターゲットにした研究をされている方もおり、有意義な意見交換ができました。また、MD Anderson Cancer Centerについても簡単に説明させていただき、数名の大学院生はMD Andersonで行われている最近のプログラムに関心を持っておられました。これを機会にMD Andersonと順天堂大学の交流が盛んになり、MD Andersonだけではなく海外の大学に留学を志す大学院生および若手研究者が増えてくれることを期待しております。



M.D.アンダーソンがんセンターについて

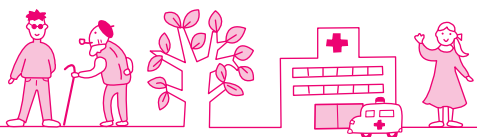
先導的がん医療開発研究センター 助教 今井 美沙

MD Anderson Cancer Center(The University of Texas)Yamaguchi's Lab

山口先生は、日本でPh.D.を取得後アメリカに留学し、7年ほど前よりDr.Mien-Chie HungのもとAssistant Professorとして働いています。現在、50人のスタッフ、大学院生が在籍しており、乳がんや卵巣癌を中心に「がん」に関わる様々なメカニズムを解明するための基礎研究が行なわれているとのことです。

大学院生はPh.D.取得まで7年前後かかるものの、給料が支給されるため、研究に集中出来ると同時に責任感を持って実験を行なう環境が整っているようです。また、最先端の研究成果を聞くことのできるセミナーが開催されており、刺激的な環境のもとで大学院生活を送ることができそうです。研究室を見学後は、今回の国際シンポジウムに関するミーティングや、アメリカの研究の現状や今後の課題などについて貴重なご意見を伺うことができました。アメリカでも研究費を取り巻く現況は厳しい中、様々な分野の専門家がその専門性を生かし、協力して資金獲得の為の申請書作成に当たっておられるとのことです。また現在Moon Shots Projectが進行中で、一年間に数億円という資金を調達し、がん撲滅に向けた研究が行われているとのことです。





Leading center for the development and research of cancer medicine

情報 コーナー

報告

下記のとおり大盛況のうちに終了いたしました。ありがとうございました。

- 連携大学ICT講義（順天堂大学、東京理科大学）
テーマ「新薬・機器開発（PMDA）」
ゲストスピーカー：重藤 和弘 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 理事
2014年6月17日（火）18:30～20:00 順天堂大学 10号館 2階203カンファレンスルーム
- 先導的がん医療開発研究センター セミナー
テーマ「The regulation and role of histonemethyltransferase EZH2 in cancer」
講師：山口 浩史（M.D.アンダーソンがんセンター）
2014年6月20日（金）18:00～19:30 順天堂大学 センチュリータワー 南4階 403教室
- 順天堂大学 シンポジウム
テーマ「国際教養学のすすめ－グローバル時代を生き抜くがんプロフェッショナルの育成を目指して－」
特別講演：猪口 邦子 参議院議員、元軍縮会議日本政府代表部特命全権大使
山本 忠道 駐ハンガリー特命全権大使、前ユネスコ日本政府代表部特命全権大使
2014年6月28日（土）13:30～16:00 順天堂大学 センチュリータワー 南8階 会議室

今後のスケジュール

詳細はHPに随時掲載します

- 連携大学ICT講義（岩手医科大学）
テーマ「がん患者の就労－支える我々ができる事 現実と理想－」
ゲストスピーカー：高橋 都 独立行政法人国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援研究部 他
2014年7月25日（金）18:30～20:00 ICT接続により連携7大学各校で開講予定
- 連携FD研修会（合宿）
テーマ「（仮）がん医療維新を達成するための自己点検と実行プランの策定」
2014年9月20日（土）・21日（日）
- 連携大学ICT講義（東京理科大学、明治薬科大学）
テーマ「がん医療コーディネーター（CRC／共同研究コーディネーター）」
ゲストスピーカー：増保 安彦 東京理科大学 薬学部 生命創薬科学科 嘱託教授
2014年10月9日（木）18:30～20:00 ICT接続により連携7大学各校で開講予定
- 肺癌シンポジウム（順天堂大学、岩手医科大学、鳥根大学、鳥取大学）
テーマ「（仮）地域から首都圏、そしてアジアまで俯瞰する肺癌研究」
2014年11月27日（木）14:30～17:00

編集後記

人間は、自分では「希望のない状況」であると思ったとしても、「人生の方からは期待されている存在」であると実感する深い学びの時が与えられている。その時、「その人らしいものが発動」してくるであろう。「希望」は、「明日が世界の終わりでも、私は今日りんごの木を植える」行為を起こすものであろう。「自分の命より大切なものがある」は、「役割意識&使命感」の自覚へと導く。「責務を希望の後に廻さない、愛の生みたる不屈の気性」が「人生の扇の要」の如く甦る。「ビジョン」は人知・思いを超えて進展することを痛感する日々である。「病気であっても、病人ではない」の社会構築が、「偉大なるお節介症候群」の使命であり、次世代の医療の姿であろう。

編集長・広報委員長 樋野 興夫

順天堂大学先導的がん医療開発研究センター 順天堂大学がん生涯教育センター

〒113-8421 東京都文京区本郷2-1-1

編集 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 広報委員会

発行 順天堂大学大学院がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

<http://ganpro-ict-plan.jp/index.html>